

令和6年度 島根県学力調査結果及び分析

松江市立義務教育学校玉湯学園前期課程

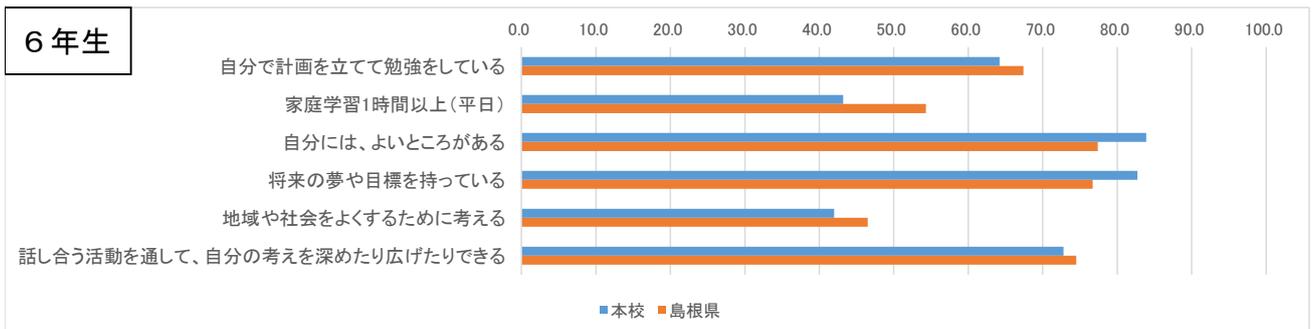
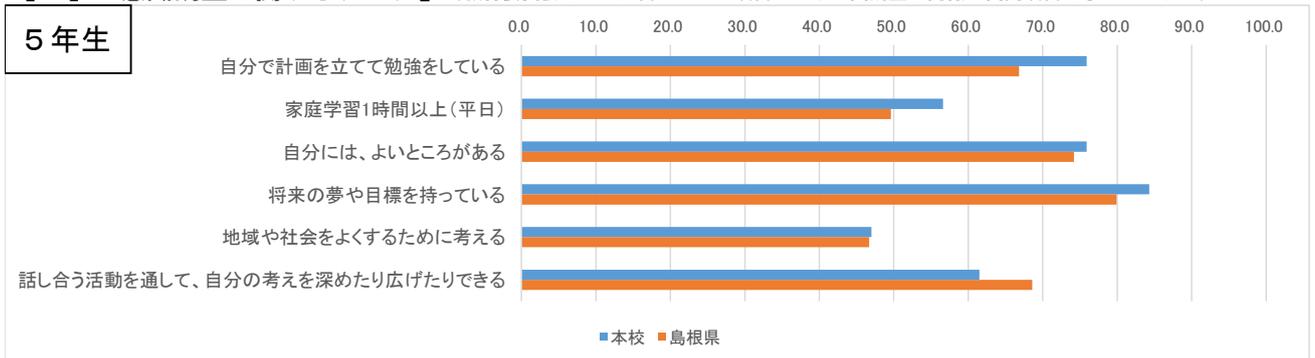
【1】「教科に関する調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	5年生	6年生
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字を読んだり漢字を書いたりする問題の正答率が高い。 ○話し手の目的に応じて話の内容を捉えたり、物語や説明文の内容を読み取ったりする問題の正答率はやや高い。 ●指定された長さで文章を書いたり、自分の意見を明確にして書いたりする問題に対する正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○聞き取りの問題の正答率が高い。 ●第5学年に配当されている漢字を書く問題の正答率が低い。 ●指定された長さで文章を書いたり、予想される反論とそれに対する意見を書くなど、記述問題の正答率が低い。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な計算問題は正答率が高い。 ○体積や合同、図形の角の問題の正答率は高い。一方で、唯一、外角の大きさを求める問いに対する正答率が県平均を下回った。 ●「厚さ5.4cmの辞書を、幅90cmの本棚に何冊並べることができるか」を説明する問題の正答率が低い。記述式の問題では無回答率が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○データの活用に関する問題の正答率がやや高い。 ○拡大図と縮図に関する問題の正答率がやや高い。 ●分数をかける乗法の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表す問題の正答率が低い。

【2】「意識調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	5年生	6年生
意識	<ul style="list-style-type: none"> ○ほとんどの項目で平均を上回っている。中でも自分で計画を立てて勉強をしていると答えた児童が県平均より約9ポイント高い。自学のノート等で計画的に学習していることが結果に繋がっていると考えられる。 ●話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりできるという項目が7ポイント県平均より低い。話し合いの活動では、分かっている人が中心で進めることがあり、子ども同士での意見の深まりを感じている児童が少ないと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の力をできる限り伸ばしたいと思っている児童が約90%おり、他の問いと関連して自己肯定感も高く、将来に向かって自分をよりよくしていこうという児童が大勢いる。 ●メディアと触れ合う時間が長い一方で、それが学習に活かされているとは言い難い。また、勉強に図書館を利用しているという問いに対する回答が著しく低いため、授業の中で図書館活用をしていく必要性がある。

【3】「意識調査に関するデータ」（教育委員会として注目している項目のうち全国調査と同様の質問項目を挙げています）



【R6学力調査受検者数】

5年生 83 名

6年生 81 名

(欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は最少の受検者数をもって表示)